

金属部会長便り(2025年1月号)2025年1月5日発行(第42号)

田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第42号

1 直近の活動

12月1日(日) 執行役談話1300～

12月1日(日) 幹事会1430～

12月8日(日) 定例部会・役員会

12月22日(日) 企業内技術士勉強会（第22回目）とBOR議論、

12月27日(木) 四部会連絡会

<<<来年も続ける。奇数月の最終木曜日の19時半

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

1月5日(日) 幹事会1430～

1月19日(日) 企業内技術士勉強会（第23回目）とBOR議論、

1月26日(日) 吉武記念講演会（第4回）機械振興会館

3 部会四方山

▶2024年を部会活動を総括すると、「皆さん、とても忙しかったかもしれませんね」です。実際、参加者は、幹事会や顧問会を入れると1600名を超えてきました。ひとえに、皆さんのご協力の賜物です。▶何がありがたいかと言えば、幹事団が自主的に企画をこなし、部会の皆さんがそれに参加していただけるこのサイクルです。企画者が忙しがったり、参加者が億劫になるような会合は、多分淘汰されてしまうのでしょうか。▶ただ、部会長便り特別編（吉武記念講演会の席上で配る「テクノメタリカ（金属部会年報）」の巻頭言）で書きましたが、こんなもので満足しては物事は何も変わりません。年末にある人からメールをいただきました。京大の新宮先生のお言葉で、「感動は進歩、満足は退歩」とありなるほどと思った次第です。新宮先生は異色の多い京大の先生の中でも特に異色の先生で、4階建ての幸福論の本があります。これ、結構面白いんです。飛行機で読んでみると、前に座ったスチュワーデスさんがその本を見て、「何だかしめんどくさそうな」と言いかけて「とても素晴らしい表題ですね」と言い直したのを今でも覚えてます。▶「満足は退歩」です。現状に満足したり、忙しい一年を振り返って「俺たちもなかなかのもんだ」なんて考えた瞬間、転落が待っているのです。前に、前に、一步一步進み続けている限り、金属部会の活動は安泰です。▶来年も、年初からいろんなイベントがあります。中でも、皆さんの協力で成功させたいのは、2月に行く、これから技術士を受ける可能性のある人を対象にしたイベントへ、皆さんのお子様たち、周囲に人たち、職場の人達を「必ず3名」は引っ張って欲しいのです。受けるとは言いません。人集めに協力願います。まだ未成年でもOKですよ。▶あまり頭にこれまで申しませんでした。和鐵は、「一貫最適教」の信者です。これは和鐵が勝手に作った宗教ですが、一貫最適を貫く限り、物事はうまく行くという教義です。一貫最適とは、理想を議論したり追い求めるのと正反対です。協議

は、その時点で、およそ考えられるできる限りの事を、できる限りの全ての時間を使って、できる限りの力で走り続ける事です。投資対効果とか、活動の意味はとか、それは誰それがやるべきことだなどとは一切考えません。そのような事をいくら議論しても、全てをMAXで走れば、最適になります。最適を尽くさないのは、怠け者の戯言です。とまあ、一般人には受け付けてもらえない考え方です。▶なぜこんな考え方になったのかと言えば、半分職業病です。品質というわけのわからない事を仕事にしてきたため、良くても褒められず、悪くなると貶される。誰も認めないが、ピンチになると頼ってくる。こういう仕事に数十年携わると、実務一辺倒の考え方になります。設備が良かった時を懐かしんだり、操業が安定しない事を悔やんだりしても何も変わりません。自分を擦り減らすしかありません。世の中が悪いと百万回言い続けても世の中は変わりません。変えられるのは自分だけしかない。でも、自分ってそんなに能力があるとは思えないし、何よりもサボリです。この状態に折り合いをつけるには、最適教を自分で起こすしか無かったです。

5 和鐵管見39

▶物事、最後には何事もうまくいくもんです。これまでの様々な個人トラブルを経験し、ピンチに陥ってきた和鐵にはそれがわかっています。年末の、ハワイ島からオアフ島にトランジットしようとした時に、kona空港の入り口でアップルウォッチがなくなりました。探すの機能を使うと、300m離れたところにありました。しかしセキュリティの外なので探しに行けません。しばらくすると動いて近くにきました。キョロキョロ探しているうちに、再び外の道路上にあります。▶セキュリティ付近で和鐵が怪しい動きを繰り返すため、制服のエアポートポリスがやってきました。それは大変だ、ということで付近にいた（暇そうな）警備員が5人集まって大捜索が始まりました。20分くらいして、一人が「ノー」という両手を挙げる仕草で合図し、散っていきました。しかし、グルグリメガネの女性警備員が和鐵を引き留め、iphoneを取り上げ何か操作して和鐵に返しました。そうすると女性警備員のパソコンのソフトが起動し始め、画面に詳細な画面が映し出されました。アップルの機能は近くにあるアップル製品を捕まえて位置特定をします。なんかアップルウォッチのIPアドレスを警察のPCと繋げたようで、詳細に位置特定が可能になりました。何だか犯罪捜査している雰囲気です。やおら荷物検査装置のところに行き、検査を止めさせ、係員を機械の下に潜り込ませました。やがて歓声が上がり、一人の警備員がアップルウォッチを高々と上げました。検査の時、外して荷物の上に置いたものが振動でロールの隙間から下に落ちたようです。女性警備員がセキュリティを通したあと、和鐵に返してくれました。後ろに立っている警官が両手の親指をたて「グッド・ラック、メリークリスマス」と言ったのはまるで映画のシーンのようで、ブルース・ウィルスか映画「セキュリティ・チェック」の主人公のイーサンになった気分でした。アップルウォッチをなくして戻ってきたのはこれで二回目です。何事も最後はうまくいくという法則は、まだ継続中です。